様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｈ０２２８６

研究課題名（和文）アウタースペース／インナースペース／インタースペース・アートの美学

研究課題名（英文）Aesthetics of Outer Space / Inner Space / Interspaceart

研究代表者
前川　修（Maekawa, Osamu）

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：２０３００２５４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,800,000円

研究成果の概要（和文）：　生命・自然班は、前年度までに集約した理論言説を整理し、アートと生命をめぐる言説へのいくつかの視点を集約した。／映像＝メディア班は、前年度までの理論言説の整理を進め、アート（芸術＝技術）としての映像メディアのもつ可能性を明らかにした。／知覚・脳科学班は、前年度までの理論言説の整理を進め、３つの班の収斂点として、脳アート／バイオ・アートが既存のアートに及ぼす理論的特異点を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本科研の研究成果は、第一に、先行するスペース・アート研究を継承し、それを深化拡大させる理論言説のプラットフォームを形成したことである。第二に、グローバル・アートというある種の「閉鎖的」な環境に風穴をあけるメタ的な視点を提示することで、ポストグローバル・アートの可能性を提示できたことがある。第三に、美学という人文系の研究をその外部と折衝させることで新たな文理融合型の研究言説の起点を生み出し、継続していることをあげることができる。

研究成果の概要（英文）：The life / nature team organized the theoretical discourses gathered up to the previous year and summarized some viewpoints on discourses on art and life. / The image-media team has been proceeding with the organization of theoretical discourse up to the previous fiscal year, and has clarified the potential of image media as art (art = technology). / The perception / brain science team has advanced the discourse of the theoretical discourse up to the previous year, and has revealed the theoretical singularity that brain art / bio art has on existing art as the convergence point of the three teams.

研究分野：美学

キーワード：宇宙　グローバリゼーション　アート　メディア　脳科学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

20 世紀末以降、アートの語られ方は多様化し、ネーションを基盤にした段階から、ネーション相互間に位相を移したインターナショナルな段階、ネーションの枠を組み替えるトランスナショナルな言説段階へと至り、その後のグローバリゼーションの進展に伴い、新たな凝集と新たな拡散を見せている。しかし、確固とした中心もないまま脱中心化するこうしたグローバルな状況に対して、従来の、ある種の普遍性を唱えるアートの言説は有効には機能しなくなっている。一方でのこうした普遍性なき普遍性への現状肯定的な対応、他方でのその反動としての地域的特殊性への回帰という二項対立が、中間項を挟みながらさまざまな偏差で現象しているのが、世界の資本の集中地でおこなわれるアート・フェスティバルと地域に密着したアートとそれらの言説である。

このようにアートの生産・受容・流通の側面が堀り崩されている現在、奇妙なことに、本来アートに具わっていた人間の生命、身体、知覚や意識をその外部的な状況、あるいはリミナルな状態から問い直すような実践や言説は周縁的位置づけをされている。それがメディア・アート、バイオ・アート、スペース・アートであり、研究代表者は「グローバル・アート・インダストリーにおけるアートの可能性」（基盤研究（C）：平成26−28 年度課題番号：26370095）において岩城覚久、増田展大とともに、グローバル・アート下の言説の系譜学研究も下敷きにし、さまざまな異分野の研究者を招いてこうしたリミナルなアートと言説を理論的にとりまとめる作業を行った。

グローバリゼーションの支えともなるテクノロジー、その顕著な形態であるメディアが、アート自体に取り込まれながら（メディア・アート）、なおかつ生命や身体をメディウム＝培地にしながら（バイオ・アート）、さらには微小重力下の実験環境のなかで相互に絡み合いながら（スペース・アート）、いかに分岐しているのか、これが本課題の前段階として整えられた体制であった。

本研究課題「アウタースペース／インナースペース／インタースペース・アートの美学」は、先に挙げたスペース・アートのみに力点を置くだけの試みではない。グローバリゼーション内部に位置するアートに対して、それを外部的な視点から照射し、なおかつアートのある種の原基的な培地となりうるのがスペース（宇宙）である。もちろん、宇宙研究自体の文脈の変化もここでは顧慮している。つまり、宇宙開発競争時代から宇宙開発共同時代へ、惑星探索型のみの実践から宇宙ステーションという閉鎖環境下での各種実験へ、それにともなう宇宙表象自体の変化という推移もここには関係している。また、アートを巡る言説である美学自体が、感覚知覚をめぐる段階から、無意識を巡る段階を経て、脳科学を中心にした段階へと推移していることもこの課題設定には深く関与している。この二つの推移する文脈を下敷きにしながら、宇宙という時空間における生命、身体、知覚の研究の深化、それを媒介するメディウム自体の変化、それがもたらす既存のアート観の変容を統一的に議論するプラットフォームを形成すること、これが、本研究が目指している地点である。こうした背景を前提に、本課題は宇宙空間におけるアートをアウタースペース／インナースペース／インタースペース・アートという三つのアスペクトに区別した。

この三つは必ずしも時代順というわけではないが、相互に継起して登場し、重なり合いながら現在にいたるスペース・アートの三つの様相であると考える。アウタースペース・アートとは、人間の知覚や身体の外部としての宇宙を契機としたアートの試みとその理論的反省を指す。たとえば1960−70 年代の外部の探索対象としての宇宙環境が参照項となるアース・アート、他者としての異生命体や外部空間としての宇宙の開拓が主題となった映像作品などがこれ

に当たる。インナースペース・アートとは、宇宙船内での微小重力などの閉鎖環境かにおける外的要因が芸術創造の契機となった芸術実践および言説を指す。たとえば、それまでの芸術の暗黙の前提となっていた重力を無化し、無重力をコンセプトの起点とすることで芸術を再考する試みが一方にある（イヴ・クライン、モホイ＝ナジなど）。他方で、外宇宙への探索軌道を内面の宇宙へと折り返すような映画映像もここに加えられる（『2001 年宇宙の旅』（1968）を契機とする内宇宙的な映像作品）。

1990 年代以降、微小重力環境下でおこなわれている芸術実践の一部も、一面では「閉鎖環境」であるがゆえに基本的にはインナースペース・アートかもしれないが、ここにはすでにインタースペース・アートという異なる位相も現れていると考える。それは、人間の生命システム（内宇宙）に外宇宙の環境条件（宇宙線、微小重力、電磁波などの要因）が及ぼす作用を反省の対象にする芸術実践のことである。国際宇宙ステーションにおいて各研究分野間で共同的におこなわれている研究成果がこれに当たる。また、ここには最新の宇宙論や映像技術を取り入れながら自明な時空間の失調を映像化する作品（『ゼロ・グラヴィティ』（2013）や『インターステラー』（2014）などの作品）も萌芽的な試みとして考えることができる。

すでにこうした共同研究は1996 年から2012 年にかけてNASDA（宇宙開発授業団）およびJAXA（宇宙航空研究開発機構）と京都市立芸大、東京藝術大学などの人文系芸術教育機関の間でおこなわれている。ただし、本科研では、これまでのこうした活動成果を基礎にしながら、先の３名（前川、岩城、増田）に以下の研究者が加わり、さらに深化した理論的問題を提起する。つまり、バイオ・アートの実践者＝理論家であり、人文系の研究者とも積極的な議論を展開している岩崎秀雄、スペースシャトルでの「第一次材料実験」（1992 年）から宇宙空間での知覚実験を牽引し、外環境における人間の知覚と運動の可塑性について長年研究を続けてきた古賀一男、ポスト・インターネット時代のインターフェースとしてのメディア・アートを討究する水野勝仁、脳神経科学とメディア・アートの融合にむけて人間の情動を起点に活動する森公一・真下武久、近代以降の生命とアートの関わりについて美学的観点から理論構築をおこなう大橋完太郎、ポスト・インターネット時代の美学や微小重力環境下での身体を考察する松谷容作の６名が新たな研究分担者になった。以上のようなメンバーを生命・自然班／映像＝メディア班／知覚・脳科学班という三つのチームに分け、スペース・アートの可能性を、事例を起点にしながら理論的／実践的な双方の探求を交錯させ、さらにチーム間での討議を進めていく。宇宙におけるアートの現在的価値を明らかにし、同時にこうした「現代」アートの極点を通じて通常の意味での現代アートを逆照射すること、以上が着想の契機であり、構想の枠組みである。

２．研究の目的

本研究の目的は、20 世紀末以来、「ポストモダニズム以降」、あるいは「グローバリゼーション以降」という境界区分をされ、複数のローカリティ、主体、資本のあいだのダイナミックな運動のなかで語られてきたアート、およびその言説を、あらためて宇宙という時空間に置きなおし、考察することである。宇宙活動が宇宙開発競争期から宇宙滞在型実験期へと至る現在までの経緯のなかで、宇宙活動を行う人間の身体というリミナルな在り方、宇宙という時空間での知覚システム、さまざまな生命システムへの作用、それらを捉える映像、こうした契機から生み出されてきた、あるいは生み出されつつあるアートの過去および現在を、生命／映像／知覚という三つの観点および理論的／事例研究的／系譜学的側面からその統一的視座を提起することを目指す。

３．研究の方法

本研究は九名の研究者でおこなわれた。スペース・アートをアウタースペース／インナースペース／インタースペース・アートと区分しながら、この諸様相に生命・自然班／映像＝メディア班／知覚・脳科学班の三つのチームがアプローチをおこない、各チームで理論／実践双方の意見交換を行い、理論研究（言説の収集と整理）、実践研究（事例の集約と整理）、両者の統合を経た後、さらに各班での討議を前提に三つのチームが相互に議論を交換する段階を踏んだ。必要な事例調査やインタヴューのための視察は毎年、それぞれのチームで国内は数回、国外は１回以上おこなった。毎年、中規模の２回の研究会の機会を設定して行った。さらに最終年度には総括的な研究会を行う予定であったが新型コロナ感染予防対策のために実施できなかった。その代わりに当日の報告も含めた報告集をウェブ上にアップロードした。

本研究の研究者の三つのチームは以下の通りである。

①生命・自然班 岩崎秀雄、大橋完太郎、☆増田展大

②映像＝メディア班 前川修、☆松谷容作、水野勝仁

③知覚・脳科学班 ☆岩城覚久、古賀一男、森公一・真下武久

（各チームの☆がついた分担者が議論のとりまとめの中心になる。）

そのうえで、研究統括を前川修、岩城覚久、増田展大が、とくに前川が主となっておこなった。

４．研究成果

初年度（2017年度）は、キックオフシンポ（第0回研究報告会）として６月に日本映像学会共催シンポジウム「宇宙×映像」（６月３日、於：神戸大学）を開催し、JAXAからの関係者も招聘し、宇宙を見る技術と映像の根本的な関わりを検討し、映像メディアから提起できるスペースアートのいくつかの視点を提起し、共有した。1月には広くグローバリゼーションにおける映像をめぐる問題を考察するために「モビリティーズ」をテーマにする研究会を行なった（第２回研究報告会、1月27日、於：神戸大学）。広くメディアを介して蔓延する映像と移動という問題は本科研の宇宙という視点に結びついている。またそれに先立つ11月には定期的な会合（第1回研究報告会、11月26日、於：同志社女子大学）で進捗状況を報告し、相互の今後の研究方針を確認した。さらに、重力に関する身体感覚の変容をめぐる展覧会（「between：connection in sensory space」、1月7日～21日、於ARTZONE）に関するトークイベント（「－６°：地上で体感する宇宙」）を通じて作品制作を通じてのアプローチも行った。分担者として加わる森にも協力を仰ぎ、知覚・脳科学班と映像班が緊密に繋がるように枠組みを強固なものにした。以上のように、初年度は主に、映像班を中心に宇宙との結びつきを検討する作業を行なった。

次年度（2018年度）は、８月開催の研究報告会（第３回研究報告会）において、生命自然班の側から、バイオ／メディア／アートの結びつきをめぐり、戦後の言説的系譜を取りまとめ、以後、メディア論を軸にしながら、引き続き最新の言説の整理へ向かう方向と、逆に生物学の起点（19世紀初頭）へ向かう方向の可能性を議論した。また、映像班は同じく８月の報告会で、宇宙映画を素材にしながら無重力を重力下で表象化する方法について議論を行なった。

知覚・脳科学班では、８月の報告会では宇宙服のもたらす知覚の問題について議論をし、３月の報告会（第４回）では、宇宙空間で視点を喪失する状態から逆に地上での幽体離脱的な反重力的視点を捉え直す議論を行ない、さらに 2009 年に開催の『宇宙と美術と人体と』展の作家へのインタビューをもとにした報告を素材に議論を進めた。また、本科研メンバーの森・真下による

ドローンを使った作品制作の経過報告についても脳科学の観点から意見を交換した。

なお、生命・自然班では、定期的に（年４回実施）バイオアートとメディア論に関する言説整理と文献消化の作業も行い、その一部を翻訳出版するプランを構築した。

各センターの調査及び事例研究としては、８月に早稲田の先端生命医科学センターおよびBioClub、筑波宇宙センターでの調査を行い、それぞれの分担者がオーストラリアのバイオアーティスト、オロン・カッツのラボ視察、アルスエレクトロニカの巡回展、佐賀宇宙科学館などの視察を行い、上記の研究会で意見交換を行った。西オーストラリアの SimbioticA での学会には岩城・増田がそれぞれバイオアート、スペースアートについて報告を行い、各国の研究者と意見交換を行った。

以上のように、2 年目は生命・自然班を中心に計画を遂行し、生物学と宇宙研究の交差点を探すと同時に、その結節点に宇宙空間での微小重力経験をめぐる脳科学的研究が位置づけられることを萌芽的ではあるが確認した。

最終年度には、8 月末に研究報告会を開催し（第５回、8 月 30 日、於：國學院大学）、生命自然班の側からは、前年度の増田の海外での発表調査をフィードバックする形で報告し、生命自然の問題系と映像メディアの問題系の交差点を提起し、岩城は知覚・脳科学班の側から生命・自然班の問題系へのアプローチをする報告を行い、大橋は、本科研の哲学的な基礎付けについて、生命と美学の深い関わりを中心に報告を行った。これは生命という概念自体の掘り起こしと再検討に結びついた。また 9 月上旬にアルスエレクトロニカ他の展覧会を事例研究として調査し、現在のバイオアートの主要な傾向やグローバリゼーション下でのバイオアートの意義の変容を議論した。さらに 2 月には森と真下による展覧会「memento terra」（島臺ギャラリー、2 月 14–16 日）を開催し、宇宙盆栽や上下反転の視覚を含めた宇宙における知覚を核にした成果となった。

以上の進捗を踏まえて 3 月に「インタースペースの美学―生命、メディア、宇宙―」と題した大きな研究会を企画した（第６回研究報告会）。生命×メディアの問題系を増田が総括して岩崎・大橋がコメントを行い、メディア×宇宙の問題系を前川が総括して古賀と水野がコメントを行い、宇宙×アートの問題系を松谷・岩城が報告し、森・真下によるコメントを行い、全体討議を経て本科研の集大成にする予定であった。しかし、新型コロナウイルス 感染予防対策への配慮もあり、会は中止せざるを得なかった。３ケ年に及ぶ蓄積を公開すべく現在、ホームページ上での公開を予定している（インタースペースの美学報告書、URL：https://sites.google.com/view/interspaceart/reports）。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計27件（うち査読付論文　17件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 松谷容作	４．巻 120(12)
２．論文標題 宇宙から地球をながめる	５．発行年 2019年
３．雑誌名 國學院雑誌	６．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松谷容作	４．巻 3(1)
２．論文標題 ポストメディア状況以後の日本のアートの営み――ポストインターネットとグローバルアートの視座で	５．発行年 2019年
３．雑誌名 暨南大学外国語学院編：外語論叢	６．最初と最後の頁 153-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩城覚久	４．巻 3(2)
２．論文標題 グローバル化時代における美学・芸術学の課題――感性論、視覚文化論、メディア論の視点から	５．発行年 2019年
３．雑誌名 外語論叢（中国、暨南大学外国語学院編）	６．最初と最後の頁 147-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Akihisa Iwaki、Nobuhiro Masuda、Yosaku Matsutani	４．巻 31(1)
２．論文標題 Creative Evolution of Moving Images?: Deleuze's Cinema and Pre-cinema	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文学・芸術・文化：近畿大学文芸学部論集	６．最初と最後の頁 47-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Akihisa Iwaki	4．巻 4(4)
2．論文標題 Toward an Aesthetics of Inter-space: From Microgravity Environment to Multi-gravity Environment	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Art Style: Art & Culture International Magazine	6．最初と最後の頁 89-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 増田展大	4．巻 第3号
2．論文標題 メディアの動物性、インターネット以降のロマン	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Poi	6．最初と最後の頁 22-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 前川修	4．巻 16
2．論文標題 セルフィ論――顔、腕、情動のエコノミー――	5．発行年 2020年
3．雑誌名 美学芸術学論集	6．最初と最後の頁 5-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 水野勝仁	4．巻 55
2．論文標題 ふたつの光の合流―――ライトボックスとロボットアームがつくる計算資源の場	5．発行年 2019年
3．雑誌名 甲南女子大学研究紀要	6．最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前川修	4．巻 16
2．論文標題 セルフィ論――顔、腕、情動のエコノミー――	5．発行年 2019年
3．雑誌名 美学芸術学論集	6．最初と最後の頁 5-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 増田展大	4．巻 3
2．論文標題 メディアの動物性、インターネット以降のロマン	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Poi	6．最初と最後の頁 22-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Akihisa Iwaki	4．巻 4(4)
2．論文標題 Toward an Aesthetics of Inter-space: From Microgravity Environment to Multi-gravity Environment	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Art Style: Art & Culture International Magazine	6．最初と最後の頁 89-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Akihisa Iwaki、Nobuhiro Masuda、Yosaku Matsutani	4．巻 31(1)
2．論文標題 Creative Evolution of Moving Images?: Deleuze's Cinema and Pre-cinema	5．発行年 2019年
3．雑誌名 文学・芸術・文化：近畿大学文芸学部論集	6．最初と最後の頁 47-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩城覚久	4．巻 3(2)
2．論文標題 グローバル化時代における美学・芸術学の課題――感性論、視覚文化論、メディア論の視点から	5．発行年 2019年
3．雑誌名 外語論叢（中国、暨南大学外国語学院編）	6．最初と最後の頁 147-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松谷容作	4．巻 3(2)
2．論文標題 ポストメディア状況以後の日本のアートの営み――ポストインターネットとグローバルアートの視座で	5．発行年 2019年
3．雑誌名 外語論叢（中国、暨南大学外国語学院編）	6．最初と最後の頁 153-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 水野勝仁	4．巻 55
2．論文標題 ふたつの光の合流―――ライトボックスとロボットアームがつくる計算資源の場	5．発行年 2019年
3．雑誌名 甲南女子大学研究紀要	6．最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩城覚久	4．巻 35
2．論文標題 嗅覚メディア・嗅覚テクノロジー小史	5．発行年 2018年
3．雑誌名 総合文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 真下武久	4．巻 35
2．論文標題 《between : connectivity in sennsory space》のための作品システム	5．発行年 2018年
3．雑誌名 総合文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 28-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大橋完太郎	4．巻 50巻14号
2．論文標題 無限の網と開いた窓：一八世紀フランス『百科全書』から考える図鑑の二つの相	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ユリイカ	6．最初と最後の頁 78－84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩崎秀雄	4．巻 23(3)
2．論文標題 BioRealityをめぐる生命美学的遍歴	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本バーチャルリアリティ学会誌	6．最初と最後の頁 7-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松谷容作	4．巻 35
2．論文標題 嗅覚を軸としたインターフェイスとコミュニケーションについての調査研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 総合文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 水野勝仁	4．巻 55
2．論文標題 ふたつの光の合流———ライトボックスとロボットアームがつくる計算資源の場	5．発行年 2019年
3．雑誌名 甲南女子大学研究紀要	6．最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森公一	4．巻 35
2．論文標題 作品展「between : connectivity in sennsory space」におけるコンセプトと作品について	5．発行年 2018年
3．雑誌名 総合文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 13-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 前川修	4．巻 14
2．論文標題 『明るい部屋』における遡行と転回	5．発行年 2018年
3．雑誌名 美学芸術学論集	6．最初と最後の頁 5－40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Akihisa Iwaki	4．巻 なし
2．論文標題 Bodily Experience and Life in A Microgravity Environment: Thinking with Space Art	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Proceedings of ICA 2016 Aesthetics and Mass Culture, The Korean Society of Aesthetics	6．最初と最後の頁 556-562
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎秀雄	4．巻 1063
2．論文標題 生命美学：メビウスの環を生きるためのバイオ・アート	5．発行年 2018年
3．雑誌名 美術手帖	6．最初と最後の頁 86-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nobuhiro Masuda	4．巻 なし
2．論文標題 Gravity and the Moving Images in the 19th Century	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Proceedings of ICA 2016 Aesthetics and Mass Culture, The Korean Society of Aesthetics	6．最初と最後の頁 355-359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松谷容作	4．巻 34
2．論文標題 環境内存在としてのコンピューターーコンピュータを介した経験の更新についての一考察ーー	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『総合文化研究所紀要』	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計28件（うち招待講演　8件／うち国際学会　13件）

1．発表者名 岩崎秀雄
2．発表標題 Culturing <Paper>cutについて
3．学会等名 文化庁メディア芸術祭アワード・コンファレンス（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 岩崎秀雄
２．発表標題 生命と非生命：児玉幸子作品を巡って
３．学会等名 シンポジウム「生命と非生命：メディアアートの視座から」横田茂ギャラリー（埼玉大学共催）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩崎秀雄
２．発表標題 クラインの壺を生きるための芸術：生命の臨界をめぐって
３．学会等名 シンポジウム「デジタル社会の多様性と創造性―アートとファッションの新展開」、明治大学
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akihisa Iwaki
２．発表標題 Toward an Aesthetics of Inter-space: Focusing on Life in Multi-gravity Environments
３．学会等名 21st International Congress of Aesthetics, 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 増田展大
２．発表標題 イリュージョンとモデリング――科学における生命付与（アニメーション）について
３．学会等名 日本記号学会第39回大会「アニメ的人間――ホモ・アニマトゥス」（第３セッション「アニメーションはアニミズムか――アニメ的人間の未来」）
４．発表年 2019年

１．発表者名 水野勝仁
２．発表標題 インタラクションにおける映像の物質的質感———ISSEY MIYAKE 「DOUGH DOUGH」
３．学会等名 日本映像学会第45回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 増田展大
２．発表標題 イリュージョンとモデリング——科学における生命付与（アニメーション）について
３．学会等名 日本記号学会第39回大会「アニメ的人間——ホモ・アニマトゥス」（第３セッション「アニメーションはアニミズムか——アニメ的人間の未来」）
４．発表年 2019年

１．発表者名 水野勝仁
２．発表標題 インタラクションにおける映像の物質的質感———ISSEY MIYAKE 「DOUGH DOUGH」
３．学会等名 日本映像学会第45回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akihisa Iwaki
２．発表標題 Toward an Aesthetics of Inter-space: Focusing on Life in Multi-gravity Environments
３．学会等名 21st International Congress of Aesthetics, 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩崎秀雄
２．発表標題 クラインの壺を生きるための芸術：生命の臨界をめぐって
３．学会等名 シンポジウム「デジタル社会の多様性と創造性―アートとファッションの新展開」、明治大学
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩崎秀雄
２．発表標題 Culturing <Paper>cutについて
３．学会等名 文化庁メディア芸術祭アワード・コンファレンス
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yosaku Matsutani
２．発表標題 A Perspective about Human Experience and Sensibility in the Coming Space Life : Based on an Analyze of Research Results on the Body and Mind of the Astronauts
３．学会等名 21st International Congress of Aesthetics、2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 前川修
２．発表標題 デジタル写真のリアルさとは？
３．学会等名 公開研究会「インスタ映えの美学――溶解する「写真」と「現実」」科学研究費基盤研究（A）ポップカルチャー・ワールド概念を用いたポップカルチャー美学の構築に関わる基盤研究（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akihisa Iwaki
２．発表標題 Creative Evolution in an Outer Space Environment
３．学会等名 Quite Frankly: It's a Monster Conference, Symbiotic＋Somatechnics, University of Western Australia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩崎秀雄
２．発表標題 DIYバイオの人文学的課題について
３．学会等名 第４回デザイン生命工学研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大橋完太郎
２．発表標題 体と情動のディスコース試論　18世紀／現代から
３．学会等名 シンポジウム「現代における揺れ動く身体と言語」、九州大学大学院言語文化研究院主催（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 真下武久（＋竹内創（合同発表））
２．発表標題 「物質性―非物質性 デザイン&イノベーション」展　あるアーカイヴの試み
３．学会等名 日本映像学会中部支部2018年度第2回研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nobuhiro Masuda
２．発表標題 The Material Mediation of Bioart
３．学会等名 Quite Frankly: It's a Monster Conference, SymbioticA+Somatechnics, University of Western Australia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yosaku Matsutani
２．発表標題 A Perspective about Human Existence in the Coming Space Life : Based on an Analyze of Survey on the Body and Mind of the Astronauts
３．学会等名 2018 ELLAK International Conference :Encounters with the Posthuman: Materiality, Vitality, Narrativity,ookmyung Women’s University (Seoul, Korea)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Koichi Mori, Takehisa Mashimo(＋Taeko Ariga,Nahoko Kusaka)
２．発表標題 Communication Education Program - Collaborative project with elderly persons by creating digital storybooks
３．学会等名 World Conference on Educational Media and Technology,Association for the Advancement of Computing in Education（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 古賀一男
２．発表標題 前額平行面内において身体を回転させた時に知覚される回転位置の範囲，回転速度，及び身体の回転時間の知覚
３．学会等名 東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究会「自己運動知覚を含む多感覚統合」
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩城覚久
２．発表標題 宇宙空間の感性学――微小重力環境から多重力環境へ
３．学会等名 国際シンポジウム『東アジア漢文圏における日本語教育・日本学研究の新たな開拓』（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Hideo Iwasaki
２．発表標題 Biological art project <aPrayer>: memorial monument to the 'souls' of artificial cells/lives
３．学会等名 International Conference ;A Japamese approach: between life and death, from nature to artefacts（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Hideo Iwasaki
２．発表標題 aPrayer: the memorial monument to the souls of artificial cells/lives
３．学会等名 nternational Conference ;LA VIE　A L’OEUVRE - NOUVELLES ECOLOGIES, BIOART, BIODESIGN（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 増田展大
２．発表標題 バイオアートとシミュレーション- 美学と自然科学の交差にむけて
３．学会等名 国際シンポジウム『東アジア漢文圏における日本語教育・日本学研究の新たな開拓』（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nobuhiro Masuda
２．発表標題 Algorithme de la vie entre art et science
３．学会等名 Rencontre entre l'Universite de Kobe et l'Universite Paris Nanterre（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kantaro Ohashi
２．発表標題 Imagination Improved--Buffon's implicit influences on British Romanticism--
３．学会等名 International Conference of British Association for Romantic Studies(University of York)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 前川修
２．発表標題 ふたつのアニメ（ーション）／カタストロフの隙間で
３．学会等名 北京大学中文系研究会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計9件

１．著者名 岩崎秀雄	４．発行年 2019年
２．出版社 美術出版社	５．総ページ数 176(148-49,156-58)
３．書名 AKI INOMATA: Significant Otherness 生きものと私が出会うとき	

１．著者名 前川 修	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 324
３．書名 イメージを逆撫でする	

１．著者名 前川修	４．発行年 2018年
２．出版社 BNN新社	５．総ページ数 376
３．書名 『インスタグラムと現代視覚文化論』	

１．著者名 増田展大	４．発行年 2018年
２．出版社 BNN新社	５．総ページ数 376
３．書名 『インスタグラムと現代視覚文化論』	

１．著者名 増田展大	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 416
３．書名 『スクリーン・スタディーズ：デジタル時代の映像／メディア経験	

１．著者名 松谷容作	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 416
３．書名 『スクリーン・スタディーズ：デジタル時代の映像／メディア経験	

１．著者名 岩崎秀雄	４．発行年 2018年
２．出版社 BNN新社	５．総ページ数 168
３．書名 ART SCIENCE IS．アートサイエンスが導く世界の変容	

１．著者名 増田展大（共著）	４．発行年 2018年
２．出版社 フィルムアート社	５．総ページ数 208
３．書名 メディア・アート原論　あなたは、いったい何を探し求めているのか？	

１．著者名 松谷容作（共著）	４．発行年 2018年
２．出版社 学文社	５．総ページ数 328
３．書名 手と足と眼と耳　地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Inner/Inter/Outer Space Art
https://sites.google.com/site/mediabiospaceart/?pli=1
MedioBioSpaceArt
https://sites.google.com/site/mediabiospaceart/

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岩崎　秀雄 (Iwasaki Hideo) (00324393)	早稲田大学・理工学術院・教授 (32689)	
研究分担者	古賀　一男 (Koga Kazuo) (30089099)	京都ノートルダム女子大学・現代人間学部・名誉教授 (34312)	
研究分担者	水野　勝仁 (Mizuno Masanori) (30626495)	甲南女子大学・文学部・准教授 (34507)	
研究分担者	大橋　完太郎 (Ohashi Kantarou) (40459285)	神戸大学・人文学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	森　公一 (Mori Koichi) (60210118)	同志社女子大学・学芸学部・教授 (34311)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	松谷　容作 (Matsutani Yosaku) (60628478)	國學院大學・文学部・准教授 (32614)	
研究分担者	岩城　覚久 (Iwaki Akihisa) (60725076)	近畿大学・文芸学部・講師 (34419)	
研究分担者	増田　展大 (Masuda Nobuhiro) (70726364)	立命館大学・映像学部・講師 (34315)	
研究分担者	真下　武久 (Masimo Takehisa) (10513682)	成安造形大学・芸術学部・准教授 (34201)	